

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保・田中 裕介
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての人間性、資質を培う。 ・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。 ・文献をまとめることで、文章の書き方や表出方法を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・文献の選択、文章の理解、疑問の抽出と解決までの流れが実行できる。 ・テーマに基づいて文献を集め、整理することができる。 ・適切な語句を用いて文章表現ができる。 ・適切な言葉を用いて発表ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。		
時間外に必要な学修				
評価学、整形外科の教科書や授業資料を再読し復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	科目のねらい、到達目標について		
2	グループ発表 1	1, 2年合同グループでの課題発表		
3	グループ発表 2	1, 2年合同グループでの課題発表		
4	グループ発表 3	1, 2年合同グループでの課題発表		
5	グループ発表 4	1, 2年合同グループでの課題発表		
6	グループ発表 5	1, 2年合同グループでの課題発表		
7	グループ発表 6	1, 2年合同グループでの課題発表		
8	グループ発表 7	1, 2年合同グループでの課題発表		
9	グループ発表 8	1, 2年合同グループでの課題発表		
10	グループ発表 9	1, 2年合同グループでの課題発表		
11	グループ発表 10	1, 2年合同グループでの課題発表		
12	グループ発表 11	1, 2年合同グループでの課題発表		
13	グループ発表 12	1, 2年合同グループでの課題発表		
14	グループ発表 13	1, 2年合同グループでの課題発表		
15	グループ発表 14	1, 2年合同グループでの課題発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、資料等		総合判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動生理学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
運動生理学Ⅰでは随意運動の発現として骨格筋の収縮メカニズムを学習した。運動生理学Ⅱでは、この骨格筋収縮のエネルギー源が何か、またそこにかかわる呼吸、循環器系の役割を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
筋収縮のエネルギー(ATP)がどのように供給されているかについて、 ・運動時の換気応答とエネルギー代謝から説明できる ・運動時の血液再配分から説明できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 運動負荷時の呼吸、循環器系の反応を知り、患者のリスク管理の根拠とする。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容についてテキストを読んで予習する。				
回	テーマ	内容		
1	導入(何を学ぶか)	運動生理学Ⅰで学習した筋収縮において、そのエネルギー源は何か		
2	外呼吸と内呼吸の流れ	好気呼吸と嫌気呼吸について		
3	物質代謝	糖質のエネルギー代謝について		
4	運動と代謝	運動時間とエネルギー供給の変化について		
5	運動と呼吸	運動負荷試験について		
6	運動と呼吸	運動負荷に伴う正常な呼吸応答について		
7	呼吸機能とトレーニング	トレーニングが呼吸機能に及ぼす影響について		
8	循環系の仕組み	循環系の解剖学的構造について		
9	運動負荷に伴う正常な循環応答 ①	運動と血流再分配について		
10	運動負荷に伴う正常な循環応答 ②	運動と血圧について		
11	運動負荷に伴う正常な循環応答 ③	運動時の末梢の反応について		
12	循環機能とトレーニング	トレーニングが循環機能に及ぼす影響について		
13	活動性の低下が身体に及ぼす影響	加齢や安静臥床が循環器系や呼吸器系に与える影響について		
14	呼吸と循環の相互作用	呼吸器と循環器の互いの影響について		
15	まとめ(何を学んだか)	食べ物の摂取から筋収縮エネルギー源のリサイクルまで、一連の流れを復習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田 琴
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患の理解。 各疾患の治療法を学ぶ。 自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理分野の疾患を理解する。 各疾患の治療法を理解する。 自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。 				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	瀬尾 憲正・河合 公三
授業の概要				
内科学について、リハビリテーションに関わりの深い内容を中心に必要かつ十分な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・病態、検査、治療という疾患理解と、からだの構造と機能の関連を理解する。 ・解剖・生理・疾患から基礎的な知識を身につける。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		瀬尾 憲正：医師として5年以上の実務経験 河合 公三：医師として5年以上の実務経験 日常診療での各疾患の治療体系とリハ業務との接点を交えながら進める。		
時間外に必要な学修				
解剖学・生理学を復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	呼吸器疾患 1	解剖と生理、症候、呼吸器診察、呼吸機能検査、画像検査について		
2	呼吸器疾患 2	呼吸不全、呼吸器感染症、免疫・アレルギー性肺疾患について		
3	呼吸器疾患 3	間質性肺疾患、閉塞性肺疾患、肺腫瘍、肺について		
4	呼吸器疾患 4	循環障害、換気異常、胸膜疾患、縦隔疾患、胸部外傷、その他の呼吸器疾患、呼吸管理とその他の治療		
5	免疫・膠原病・感染症 1	免疫総論と免疫異常について		
6	免疫・膠原病・感染症 2	膠原病総論・膠原病について		
7	免疫・膠原病・感染症 3	感染症総論・細菌感染症について		
8	免疫・膠原病・感染症 4	ウイルス感染症・真菌感染症・寄生虫感染症について		
9	脳・神経疾患 1	神経系の構造と機能、脳動脈と脳血管障害について		
10	脳・神経疾患 2	脳血管障害に関わる病態、脳血管の後遺症、脳静脈・髄液循環とその障害、運動・感覚・自律神経について		
11	脳・神経疾患 3	神経・筋の異常、脱髄疾患～Lennox-Gastaut症候群について		
12	脳・神経疾患 4	神経・筋の異常、頭痛～Wernicke脳症について		
13	腎臓疾患 1	解剖、検査、処置、症候、腎臓の機能、体液と浸透圧、水・ナトリウム代謝、カリウム代謝、Ca/P/Mg代謝、酸塩基平衡、輸液療法		
14	腎臓疾患 2	腎疾患総論、糸球体疾患、腎血管系の疾患、全身疾患に伴う腎障害、腎不全、腎代替療法		
15	まとめ	各分野の最近の知見、平均寿命、死因に関する分野についての的を絞り、問題点をあげて教育する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる Vol.4 呼吸器 ・病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症 ・病気がみえる Vol.7 脳・神経 ・病気がみえる Vol.8 腎臓・泌尿器 (メディック・メディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	谷野 善彦・中内 英樹
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について解説する。				
授業終了時の到達目標				
整形外科の一般的疾患に対する診断法と治療法を理解し、保存療法やリハビリテーションの実施に役立てることができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		谷野 善彦: 医師として5年以上の実務経験 日常診療と外科的手術の経験談を交えながら授業を展開する。 中内 英樹: 理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料や授業内容を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内容		
1	リウマチ 1 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 変形の特徴、診断方法、診断基準①		
2	リウマチ 2 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 変形の特徴、診断方法、診断基準②		
3	リウマチ 3 (総論、内科的治療、外科的治療)	関節リウマチの基礎、臨床、治療の実際: 治療と考え方		
4	肩関節	肩関節疾患の解剖とその病態		
5	肘関節	肘関節の解剖学的特徴、臨床像、画像診断、合併症		
6	手関節と手の疾患 1	手関節、手の解剖学的特徴、臨床像、画像診断、合併症		
7	手関節と手の疾患 2	靭帯損傷に伴う合併症、靭帯、兼の働き		
8	末梢神経損傷、スポーツ損傷	障害の特徴と臨床像、画像診断、合併症		
9	スポーツ損傷、代謝性骨疾患	スポーツ損傷と障害、代謝性骨疾患に伴う合併症、神経損傷分類、特有の疾患名		
10	骨腫瘍	骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
11	下肢の骨折	骨盤骨折、大腿骨頸部骨折(関節包内・関節包外)		
12	下肢の骨折、脱臼	下腿・足部の骨折、股関節脱臼		
13	スポーツ外傷(下肢分)	Osgood-Schlatter病、肉離れ、筋挫傷、FAI		
14	変形性関節症 1	変形性関節症総論、変形性膝関節症(症状、画像、治療)		
15	変形性関節症 2	変形性股関節症(症状、画像、治療)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹(メジカルビュー社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	土居 智和
授業の概要				
神経内科学においては、解剖学などの基本的医学知識に基づき、それぞれの疾患の病因や臨床症状、治療などについての理解度を深めることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
神経系のはたらきや役割、機能について理解する。さらにこれを基礎として、各種神経疾患の症状や治療法、予後に至るまでについて考察できる知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		土居 智和: 医師として5年以上の実務経験 日常診療での各疾患の特徴を経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	神経系の構造と機能障害	ニューロンとグリア細胞 運動の異常、感覚の異常		
2	診察と検査	自律神経の異常、診察と検査		
3	脱髄性疾患 1	脱髄疾患総論、多発性硬化症		
4	脱髄性疾患 2	視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎		
5	末梢神経障害 1	末梢神経疾患総論		
6	末梢神経障害 2	Guillan-Barre症候群、Fisher症候群、CIDP		
7	末梢神経障害 3	Charcot-marie-Tooth病、家族性アミロイドニューロパチー 糖尿病性ニューロパチー、Bell麻痺		
8	神経変性疾患 1	神経変性疾患総論 Parkinson病、線条体黒質変性症、進行性核上性麻痺		
9	神経変性疾患 2	Huntington病、脊髄小脳変性症		
10	神経変性疾患 3	筋萎縮性側索硬化症、亜急性脊髄連合変性症		
11	神経変性疾患 4	脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症		
12	筋疾患 1	筋疾患総論、筋ジストロフィー		
13	筋疾患 2	ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺、多発性筋炎、 皮膚筋炎		
14	神経接合部疾患 1	神経接合部疾患総論		
15	神経接合部疾患 2	重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見える vol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
脳神経外科学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中村 あや
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経の構造や生理およびその病態と検査法や治療法について理解を深めるとともに脳神経分野における代表的な疾患に対する知識を習得する。 ・授業内容に関する小テストを実施し、授業内容に対する習得度を評価する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経の構造や生理、病態生理、診断、検査、治療法等の基本的知識を習得し、他者に説明することができる。 ・授業で紹介する代表的な疾患について、その原因や症状、治療法などの知識を習得する。 ・授業毎に行われる小テストで7割以上正答できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医師として5年以上の実務経験 日常診療と外科的手術の経験談を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
前回の配布資料を振り返りポイントを復習する。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	脳神経外科学の概論、脳神経機能、能力障害に対する評価概論		
2	脳神経解剖学概論 1	大脳皮質の神経機能解剖学		
3	脳神経解剖学概論 2	大脳基底核、間脳、小脳、脳幹の神経機能解剖学		
4	脳神経解剖学概論 3	脳神経の機能解剖学、脊髄神経機能解剖学、脳・脊髄血管解剖学		
5	脳神経疾患に対する評価 診断、診察	脳、脊髄、末梢神経疾患の特徴的な訴えと症状		
6	脳・脊髄・末梢神経の検査	画像検査や生理的検査の見方		
7	治療概論	脳神経外科的疾患に対する治療の概念		
8	脳腫瘍	頭蓋内に発生する腫瘍の概説		
9	脳血管障害 1	虚血性脳血管障害の種類とその特徴、リスク、症状の特徴		
10	脳血管障害 2	出血性脳血管障害の種類とその特徴、リスク、症状の特徴		
11	頭部外傷概論	外傷の初期評価と初期対応、交通外傷、高齢者・小児の頭部外傷		
12	小児脳神経外科疾患概論	中枢神経の発生、神経系における先天性疾患・小児脳神経外科が扱う疾患		
13	脊椎・脊髄疾患概論	脊椎・脊髄の神経解剖と代表的な疾患		
14	機能的脳神経外科・脳神経感染症 概論	知っておきたい脳神経の機能的疾患や手術について		
15	末梢神経疾患概論	末梢神経疾患について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・病気がみえるVol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	嶋 宏美
授業の概要				
現代の精神医学の基礎について、OT、PTの日常業務に役立てられるように学んでもらう。 国家試験に準拠した内容を十分に理解して、日常業務に役立ててもらおう。				
授業終了時の到達目標				
精神医学概論から症状論、リエゾン精神医学などを中心に理解し、さらにリハビリテーション医学の役割、位置づけも理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医師として5年以上の実務経験 精神症状の具体例や患者様の表出方法等を診療経験談を交えながら説明する。		
時間外に必要な学修				
授業前に教科書を事前に確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	第10章 気分(感情)障害	気分(感情)障害とは、うつ病、躁うつ病、持続性気分障害 など		
2	第11章 神経症性障害	神経症性障害のとらえ方、不安及び恐怖を中心とする神経障害、強迫を中心とする神経障害 など		
3	第12章 生理的障害及び身体的要因に関連した障害	摂食障害、非器質性の精神障害、性関連障害 など		
4	第10章から第12章までの復習	小テストと解答解説		
5	第13章 成人の人格・行動・性の障害	パーソナリティの障害、行動の障害、性の障害 など		
6	第14章 精神遅滞	精神遅滞とは、頻度の高い精神遅滞、精神遅滞の医療 など		
7	第15章 心理的発達の障害	心理的発達の障害、特異的発達障害、広汎性発達障害		
8	第16章 リエゾン精神医学	コンサルテーション・リエゾン精神医学とは		
9	第13章から第16章までの復習	小テストと解答解説		
10	第17章 心身医学	心身医学の概念、心身症とは、心身症の診断と治療		
11	第18章 ライフサイクルにおける精神医学 1	ライフサイクルと年代の区分、小児期・青年期の精神障害		
12	第18章 ライフサイクルにおける精神医学 2	小児期・青年期の精神障害から不登校まで		
13	第19章 精神障害の治療とリハビリテーション	精神障害の治療とリハビリテーションとは		
14	第20章 精神保健医療と福祉、職業リハビリテーション	精神障害者の処遇および医療の歴史、精神保健福祉法の主な内容、障害者総合支援法の主な内容 など		
15	第21章 社会・文化とメンタルヘルス	精神の病と社会の関係、学校におけるメンタルヘルス、職場のメンタルヘルス、家庭のメンタルヘルス など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門分野 精神医学(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
老年学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体面・精神面・社会面・生活面の観点から高齢者の理解を深めていく。 ・老化にともなう生じる障害や病態について理解を深める。 ・高齢障害者における理学療法士の役割を考える。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・老化についてのメカニズムを理解する ・老年期の身体的変化、精神的変化を理解する。 ・高齢者に特有な疾病について理解を深める。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 急変時対応と在宅場面での問題点をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・次回の内容を確認し、テキストを準備し内容を確認し予習する。 ・重要ポイントをテキストを通じて復習する。 ・高齢化社会についてニュースを通じて関心を持つ。 				
回	テーマ	内容		
1	高齢者とは	<ul style="list-style-type: none"> ・老年学の概要 ・高齢者とは 		
2	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機能、感覚機能、平衡機能の低下 		
3	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的機能低下(呼吸・循環・代謝など) 		
4	加齢に伴う心身機能の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・知能や精神機能の低下 		
5	高齢者の健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防 ・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム ・服薬管理 		
6	老年症候群①	<ul style="list-style-type: none"> ・老年症候群と生活機能障害 ・老年症候群と評価方法について 		
7	老年症候群②	<ul style="list-style-type: none"> ・健忘と認知症 ・うつ症状 		
8	老年症候群③	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の病態と理学療法 		
9	老年症候群④	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器機能障害 		
10	老年症候群⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の異常と転倒 ・転倒予防 		
11	寝たきり予防	<ul style="list-style-type: none"> ・長期臥床と寝たきり ・二次的合併症の症状と予防 		
12	症例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での長期療養患者の介護と理学療法 		
13	嚥下機能と誤嚥性肺炎	<ul style="list-style-type: none"> ・正常な嚥下機能 		
14	誤嚥性肺炎と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎の原因と予防 		
15	症例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・嚥下患者の理学療法 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者理学療法学テキスト(南江堂) ・配布資料 		期末試験 課題・レポート	85% 15%	欠席なく授業・演習には主体的に参加し学習する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を学ぶ。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を学ぶ。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム(バイオメカニクス)を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の構造と機能を説明することができる。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経の損傷と治癒過程を説明することができる。 ・皮膚、靭帯、腱、筋、末梢神経が損傷されるメカニズム(バイオメカニクス)を説明することができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
1年次に履修した解剖学(骨関節系)と運動学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	靭帯損傷の治癒過程 膝十字靭帯のバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・靭帯の機能解剖 ・靭帯損傷後の治癒過程 ・十字靭帯の物性、弛緩性、不安定性 ・再建材料の強度 		
2	ACL再建術の基礎となるバイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・前方制動性・線維束間の機能分担 ・屈曲伸展に伴う張力変化・移植腱固定に必要な初期張力 		
3	膝十字靭帯再建術におけるバイオメカニクスの応用	<ul style="list-style-type: none"> ・十字靭帯の長さ変化・十字靭帯のisometry ・力学的環境が十字靭帯に与える影響 		
4	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・各手術手技と理学療法のポイント 		
5	膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術	<ul style="list-style-type: none"> ・各手術手技と理学療法のポイント 		
6	腱損傷の治癒過程 アキレス腱損傷について	<ul style="list-style-type: none"> ・腱の機能解剖 ・腱損傷後の治癒過程 ・アキレス腱損傷後の修復過程 		
7	アキレス腱損傷の保存療法 " の術後療法	<ul style="list-style-type: none"> ・手術手技と理学療法のポイント 		
8	筋の構造と筋損傷	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の機能解剖 ・筋損傷と遅発性筋痛症 		
9	筋の代謝と治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の代謝 ・筋損傷の治癒過程 		
10	廃用性筋萎縮とサルコペニア	<ul style="list-style-type: none"> ・廃用性筋萎縮と加齢性筋肉減少症の定義の違い ・それぞれの発生機序と効果的なトレーニング 		
11	創傷について 創傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷の定義 ・皮膚の機能解剖 ・創傷とケロイド ・創傷の治癒過程 ・植皮の生着の過程 		
12	熱傷について 熱傷の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・熱傷の分類 ・熱傷の治癒過程 ・熱傷に対する理学療法 		
13	末梢神経の機能解剖 末梢神経損傷の分類機能障害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経の構造、機能、解剖、形態的分類 ・機能障害の特徴と組織の変化 		
14	末梢神経の治癒過程	<ul style="list-style-type: none"> ・ワラー変性と再生 ・神経損傷に対する治療 		
15	末梢神経損傷に対する理学療法	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価 ・運動療法と物理療法 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・機能障害科学入門(神陵文庫) ・ACL再建術前後のリハビリテーションの科学的基礎(ナップ) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎理学療法学Ⅲ		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
・呼吸器疾患、循環器疾患の病態を理解するために必要な生理学的基礎知識を習得する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・生理学的知識および用語を用いて、呼吸・循環生理を説明できる ・心不全の病態と呼吸循環系への影響について説明できる ・呼吸器と循環器の相互作用について理解する 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 症例を交えて病態をイメージできるように展開する。		
時間外に必要な学修				
内臓の機能を振り返り、解剖整理を復習する。				
回	テーマ	内 容		
1	内部障害とは何か ・内部障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害とは ・内部障害に対する理学療法士の役割 		
2	肝臓の機能と傷害	<ul style="list-style-type: none"> ・肝臓機能障害について ・肝臓疾患の病態と治療 		
3	消化吸収絹障害	<ul style="list-style-type: none"> ・消化吸収機能と機能障害 		
4	腎臓機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓機能障害について ・腎臓疾患の病態と治療について 		
5	腎臓機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> ・透析治療について 		
6	腎臓機能と代替療法	<ul style="list-style-type: none"> ・代替療法と運動療法について 		
7	心臓の機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓機能と機能不全 		
8	心臓の機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> ・心電図について 		
9	心臓の機能と障害	<ul style="list-style-type: none"> ・心電図と病態 		
10	呼吸器機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸機能の解剖と障害(外呼吸) 		
11	換気の異常	<ul style="list-style-type: none"> ・スパイグラムによる換気機能障害 		
12	換気の異常	<ul style="list-style-type: none"> ・フローボリュームによる換気機能障害 		
13	呼吸不全とは	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸不全の病態と治療 		
14	血液ガスと酸塩基平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・血液ガスの正常と異常 ・アシドーシスとアルカローシス 		
15	血液ガスと酸塩基平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器機能と腎臓機能との関係 ・血液ガス異常の原因と代償 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえるvol.1 消化器 ・病気がみえるvol.4 呼吸器 ・病気がみえるvol.8 腎・泌尿器 (メディックメディア) ・内部障害の理学療法学 (医歯薬出版) 		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法研究管理論		理学療法学科/2年	2020/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横倉 益弘
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士として研究の必要性を理解する ・研究の方法を理解する ・基本的な統計処理を理解する ・Power Pointを使ったプレゼンテーションを経験する 				
授業終了時の到達目標				
・理学療法士として研究の必要性を理解し、指導者の助言・指導を受けながら、基本的な研究発表を行うことができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 国民健康保険病院勤務時、行政職、保健師、ヘルパーと共に連携し地域医療に従事した経験をもとに授業を進める。		
時間外に必要な学修				
既習の情報科学、統計学を復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	研究とは 理学療法と研究	研究の意義・目的、心構え 理学療法と研究、理学療法の研究の現状		
2	文献検索 テーマ作成	文献・テーマの検索 テーマ作成用紙の作成		
3	研究計画書作成	研究計画書の作成 情報収集		
4	研究計画書作成	研究計画書の作成 情報収集		
5	研究実施 レポート作成	研究計画書に則った研究の実施 レポートの作成、研究進行報告書の作成		
6	研究実施 レポート作成	研究計画書に則った研究の実施 レポートの作成、研究進行報告書の作成		
7	研究実施 レポート作成	研究計画書に則った研究の実施 レポートの作成、研究進行報告書の作成		
8	研究実施 レポート作成	研究計画書に則った研究の実施 レポートの作成、研究進行報告書の作成		
9	研究実施 レポート作成	研究計画書に則った研究の実施 レポートの作成、研究進行報告書の作成		
10	発表原稿 発表抄録作成	レポートを元に、発表用スライド(パワーポイント) 発表用抄録の作成		
11	発表会	研究発表 発表内容についての作成		
12	発表会	研究発表 発表内容についての作成		
13	発表会	研究発表 発表内容についての作成		
14	発表会	研究発表 発表内容についての作成		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な障害の規定要素と仕組みを教授する。 ・主要な障害に対する評価の理論と方法を教授する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法の概要を説明できる。 ・運動療法を実施する際に必要なリスク管理について説明できる。 ・主要な障害の規定要素と仕組みを説明できる。 ・主要な障害に対する評価を実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
神経・筋・呼吸・循環の生理学と運動生理学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	総論 1	運動療法の概要		
2	総論 2	運動療法のリスク管理		
3	関節可動障害 1	関節可動障害の規定要素と障害の仕組み		
4	関節可動障害 2	関節可動障害の評価		
5	筋力低下 1	筋力低下の規定要素と障害の仕組み		
6	筋力低下 2	筋力低下の評価		
7	筋持久力 1	筋持久力低下の規定要素と障害の仕組み		
8	筋持久力 2	筋持久力低下の評価		
9	全身持久力 1	全身持久力低下の規定要素と障害の仕組み		
10	全身持久力 2	全身持久力低下の評価		
11	協調性 1	協調性の規定要素と障害の仕組み		
12	協調性 2	協調性障害の評価		
13	姿勢調節 1	姿勢調節の規定要素と障害の仕組み		
14	姿勢調節 2	姿勢調節の評価		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際(文光堂)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病態治療統合学		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
疼痛の発生機序と生体内での調節、コントロールについて学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
疼痛の発生機序と生体内での調節、コントロールを説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
授業時の配布資料の復習				
回	テーマ	内容		
1	痛みの概念について(1)	片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛などの特徴、頭痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
2	痛みの概念について(2)	胸痛の特徴、5 Killer chest painsについて、胸痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
3	痛みの概念について(3)	腹痛の原因、虫垂炎、機能的消化管障害、腸閉塞について、腹痛で見逃したくない疾患など		
4	痛みの概念について(4)	腰痛の分類、原因、各疾患の特徴、腰痛のレッドフラッグサイン、見逃したくない疾患など		
5	痛みの経路(前半)	侵害受容器、脊髄後角、炎症メディエータについて、ポリモーダル受容器、末梢性感作、中枢性感作など		
6	痛みの経路(後半)	痛みを伝える線維、Rexed層、後角での電位発生、シナプス抑制、二次ニューロン、大脳辺縁系について		
7	下行性疼痛調整系	痛みの経路のまとめ、オピオイドの観点からの下行性疼痛調整系、脳内ドパミンシステムなどについて		
8	痛みの病態による分類	痛みの伝わり方、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、非器質性疼痛(心因性疼痛)、共感について		
9	慢性痛について	慢性痛の定義、Biopsychosocial modelについて、痛みの悪循環、薬物療法、慢性痛へのアプローチなど		
10	腰痛について	腰痛の発生源について、Modic type、それについての関連、反映する内容、非特異的腰痛(慢性腰痛)など		
11	痛み、炎症についての文献抄読とまとめ(1)	痛みや炎症に関連する文献を各自が抄読し、まとめたものを冊子として全員に配布し語彙、共通認識を増やす		
12	痛み、炎症についての文献抄読とまとめ(2)	痛みや炎症に関連する文献を各自が抄読し、まとめたものを冊子として全員に配布し語彙、共通認識を増やす		
13	受容体について	TRPV1、PTPV4、TRPA1、TRPM8受容体などの特徴について、鎮痛補助薬、PRS(Pain Relief Score)など		
14	炎症について	炎症の定義、分類、意義、原因など、急性炎症と慢性炎症の特徴、炎症反応について		
15	文献抄読内容についての発表	冊子を使用し各自「痛み」もしくは「炎症」について選択し端的に発表することで語彙、文献からの情報を共有する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、文献等		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
動作分析セミナー		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・動作分析の概要及び方法論を教授する。 ・起立動作や歩行を分析するための理論と方法を教授する。 ・事例を通して臨床的思考と問題解決を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・起立動作・歩行動作を運動学的・運動力学的・筋電学的に説明できる。 ・動作障害の原因の仮説立案ができる。 ・得られた情報を利用して統合と解釈ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて分析のポイントを指導する。		
時間外に必要な学修				
授業テキストを用いて、分析に必要な内容を予習する。				
回	テーマ	内容		
1	動作分析とは 概要	動作分析を何故行うのか、何故重要なのかを理解する		
2	運動学的分析	動作を運動学的思考を用いて評価・分析する		
3	運動力学的分析	動作を運動力学的思考を用いて評価・分析する		
4	筋電図学的分析	動作を筋電図学的思考を用いて評価・分析する		
5	起立動作の基礎	座位から起立までの一連の動きを運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
6	起立動作分析のポイント	機能障害別の起立動作を理解する		
7	歩行の基礎	正常歩行を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
8	歩行分析のポイント	歩行分析を行う際の着目点を理解する		
9	異常歩行	各異常歩行とその構造を解剖学的・運動学的視点で理解する		
10	階段昇降の基礎	階段昇降を運動学・力学・筋電図を用いて理解する		
11	階段昇降動作分析	機能障害別の階段昇降の特徴を理解する		
12	事例検討①	提示した症例の歩行を観察し、記録を作成する		
13	事例検討②	異常歩行の原因を分析する為に必要な評価項目を収集する		
14	事例検討③	観察した結果と情報を統合し、予後予測を行い必要な訓練や歩行補助具を選定する		
15	発表・まとめ	グループ毎に発表し、より良い方法を選択する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・動作分析臨床活用講座(メジカルビュー) ・日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ(医歯薬出版) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
画像診断学		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・画像の種類や特徴などについて学ぶ。 ・画像から得られる情報に気付くトレーニングを行う。 ・得られた情報から考えられる病態を模索する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・異常所見をみつけることができる。 ・画像所見を述べることができる。 ・画像所見から予測できる臨床症状、それに関連する評価項目を述べるができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
配布資料の復習。				
回	テーマ	内容		
1	画像の基本と検査法について	骨折のX線診断の基本、撮影方向について、X線、CT、MRI、DSA、CAG、SPECTとPET、ECGなど		
2	画像解剖学(1)	頸椎、胸椎および腰椎の正面像と側面像について、解剖学的な位置関係と実際の画像とを照らし合わせる		
3	画像解剖学(2)	股関節、膝関節および足関節の正面像と側面像について、解剖学的な位置関係と実際の画像とを照らし合わせる		
4	画像解剖学(3)	脳表から前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉を区分、細分を行い、実際の画像で簡単な同定を行う		
5	四肢、関節の画像	骨折の原因による分類、開放骨折と皮下骨折、骨折治癒の異常過程について、脱臼、骨折、大腿骨頭壊死など		
6	脊椎、脊髄の画像	椎間板ヘルニア、OPLL、黄色靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、脊髄損傷、強直性脊椎炎、化膿性脊椎炎など		
7	頭部の画像(1)	正常CT画像から部位の同定、解剖学的位置関係の確認、立体的構造の確認など		
8	頭部の画像(2)	MRIのT1、T2画像について、脳血管障害の画像経過、虚血再灌流障害とその画像、脳血流など		
9	胸腹部の画像	肺水腫と胸水、その原因、胸水と無気肺との画像上での識別について、無気肺、各サインと代表的な陰影など		
10	UCG、CAG、ECG	各画像の意義、正常波形の成り立ち、肢誘導と胸部誘導から得られる情報について、代表的な不整脈など		
11	モニターECGの読解(1)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
12	モニターECGの読解(2)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
13	モニターECGの読解(3)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
14	モニターECGの読解(4)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
15	モニターECGの読解(5)	さまざまなモニターECGの波形を読解することで、各不整脈の特徴を捉え、画像所見としてのECGをマスターする		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・各種書籍、文献等		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学Ⅲ		理学療法学科/2年	2020/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域で必要な各種検査測定について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 徒手筋力検査法を知る。 実際の検査の流れに従って徒手筋力検査を実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った評価技術と経験を伝える。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえ予習する。発表がある時は準備すること。				
回	テーマ	内容		
1	部位別徒手筋力検査(肩関節1)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 肩甲骨外転・上方回旋 肩関節屈曲、外転 		
2	部位別徒手筋力検査(肩関節2)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 肩関節内旋、外旋、水平内転、水平外転、伸展 		
3	部位別徒手筋力検査(肩甲帯)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 肩甲骨拳上、内転、下制内転、内転下方回旋、下制 		
4	部位別徒手筋力検査(肘関節)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 肘関節屈曲、伸展 		
5	部位別徒手筋力検査 (前腕・手関節)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 前腕回内、回外 手関節屈曲・伸展 		
6	部位別徒手筋力検査(手指)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 母指と手指の屈曲、伸展、内転、外転、対立 		
7	上肢徒手筋力検査1	<ul style="list-style-type: none"> 肢位別検査実技 		
8	上肢徒手筋力検査2	<ul style="list-style-type: none"> 肢位別検査実技 		
9	部位別徒手筋力検査(頭頸部)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 頭頸部屈曲・伸展、複合屈曲・伸展 		
10	部位別徒手筋力検査(体幹部)	<ul style="list-style-type: none"> 検査筋と運動方向の理解 胸椎・腰椎屈曲、伸展、回旋 		
11	部位別徒手筋力検査 (脳神経支配筋1)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 外眼筋、眼瞼の筋 		
12	部位別徒手筋力検査 (脳神経支配筋2)	<ul style="list-style-type: none"> 検査筋と運動方向の理解 顔面筋、眼瞼の筋 		
13	部位別徒手筋力検査 (脳神経支配筋3)	<ul style="list-style-type: none"> 検査実技 咀嚼、嚥下に関わる筋 		
14	徒手筋力検査まとめ1	<ul style="list-style-type: none"> 提示部位の検査実技 		
15	徒手筋力検査まとめ2	<ul style="list-style-type: none"> 提示部位の検査実技 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 理学療法評価学(金原出版) 新 徒手筋力検査法(協同医書出版) 		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価学演習		理学療法学科/2年	2020/後期	演習・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
135分	15回	2単位(45時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な各種検査測定について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張検査方法を知る。 ・協調運動障害の検査法を知る。 ・反射検査、冠名徴候検査を知る。 ・感覚検査方法を知る。 ・脳神経検査法を知る。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術と経験を伝える。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえ実技練習と予習をする。				
回	テーマ	内容		
1	筋緊張の調整機構と筋緊張検査	<ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張の調整機構 ・筋緊張の質的、量的検査 		
2	反射と冠名徴候検査	<ul style="list-style-type: none"> ・反射の機構と障害による症状 ・冠名徴候とその意義 		
3	筋緊張検査と反射 冠名徴候検査実技	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 		
4	感覚の種類と感覚経路障害 1	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚と知覚の定義 ・感覚受容器の種類 ・感覚の経路と障害による症状 		
5	感覚の種類と感覚経路障害 2	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚検査法 		
6	感覚検査実技	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 		
7	脳神経と検査法 1	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経 I～VIの機能と検査法 		
8	脳神経と検査法 2	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経 VII～XIIの機能と検査法 		
9	ベッドサイドでの脳神経の診かた	<ul style="list-style-type: none"> ・脳ヘルニアと目の症状の診かた 		
10	脳神経検査実技	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 		
11	協調性運動障害	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制御と協調性障害 ・運動失調 		
12	協調性運動障害と検査法	<ul style="list-style-type: none"> ・運動失調検査と課題遂行能力検査 		
13	協調性運動障害検査実技	<ul style="list-style-type: none"> ・検査実技 		
14	まとめ 1	<ul style="list-style-type: none"> ・提示症例の検査実技演習 		
15	まとめ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・提示症例の検査実技演習 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学(金原出版) ・新 徒手筋力検査法(協同医書出版) ・神経診察クローズアップ (メジカルビュー) 		実習・実技評価	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動評価学 I		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
日常生活活動(ADL)の概念と範囲、意義を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ADLの概念、範囲が説明できる。 ・ICIDH、ICFの分類が理解できる。 ・姿勢や動き、動作の観察ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
日常生活の範囲や動作の要素について考察しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	ADLの概念、範囲について	BADL、APDLとIADL、ADL評価の目的、評価尺度、できるADLとされているADL、ICIDHとICFについて		
2	ADLとQOLについて	主観的QOLと客観的QOL、生物レベルと個人、社会レベルのQOLについて、それらの具体例など		
3	ADLとICF(ICIDH)問題点の抽出方法について	ICIDHとICFそれぞれの概念、視点について、それらを用いて問題点の整理(演習)など		
4	統合と解釈について(1)	統合と解釈の位置づけ、介入例、KJ法を用いた課題の整理、主要な問題点の抽出方法(演習)など		
5	統合と解釈について(2)	統合と解釈の位置づけ、介入例、KJ法を用いた課題の整理、主要な問題点の抽出方法(演習)など		
6	姿勢や動き、動作の確認(1)	観察のポイントについて、支持基底面と重心の移動、バランス活動の例、テコの種類、運動の法則など		
7	姿勢や動き、動作の確認(2)	起き上がり動作までの実演と指導、介助方法などについて		
8	起き上がり動作について	起き上がり動作にて必要な要素や筋など、起き上がり動作の介助方法について		
9	床上動作について	床上動作にて必要な要素や筋など、それぞれの動作の介助方法について		
10	立ち上がり動作について	立ち上がり動作にて必要な要素や筋など、それぞれの動作の介助方法について		
11	移乗動作について	移乗動作にて必要な要素や筋など、それぞれの動作の介助方法について		
12	姿勢の変換について	出来る肢位と可能な肢位、やらない方がいい肢位とやってはいけない肢位など		
13	セルフケアについて	セルフケアにおける過程、必要な心身機能、影響を与える因子などについて		
14	各種評価表について	FIM、Barthel Index、KatzのADL評価、PULSES、LawtonのADL、IADLスケール、Kenny Self-Care Evaluationなど		
15	まとめと考察	まとめと考察作業		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動学テキスト(南江堂) ・基礎バイオメカニクス(医歯薬出版) ・動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動評価学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
日常生活活動(ADL)の概念と範囲、意義を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・動作の記述ができる。 ・ADL指導や環境整備、機器の選定の提案などができる。 ・ADL評価が実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
疾患別ADLについては関連分野の講義資料を復習しておく。				
回	テーマ	内容		
1	FIMについて(1)	FIMの原則、概要、評価方法と定義、各項目の採点方法について		
2	FIMについて(2)	各項目の採点方法、国家試験問題の解説など		
3	福祉用具と住環境整備について	福祉用具、スロープの概要、介護保険における貸与と購入、それぞれの手順、住環境整備の流れなどについて		
4	動作を考える	運動学的視点、テコの種類について、動作分析の目的など		
5	計算問題	力学的視点から国家試験問題の解説		
6	観察のトレーニング(1)	動画から観察のヒントをつかむ、観察内容を表現する		
7	観察のトレーニング(2)	動画から観察のヒントをつかむ、観察内容を表現する		
8	動作の記述ができる	動画からの観察内容を時系列につなげる、ひと通りの記述を経験する		
9	動作の模倣と記述(1)	動作分析を口述、模倣そして記述、記述内容をもとに動作の再現性を確認、フィードバックする		
10	動作の模倣と記述(2)	動作分析を口述、模倣そして記述、記述内容をもとに動作の再現性を確認、フィードバックする		
11	各疾患の観察	DVDから特徴を観察、観察内容を表現する		
12	各疾患のADL(1)	病態の整理、症例検討、デモンストレーション、国家試験問題の解説など		
13	各疾患のADL(2)	病態の整理、症例検討、デモンストレーション、国家試験問題の解説など		
14	訪問指導での視点 訪問時のアセスメントについて	訪問指導での注意点、訪問におけるアセスメントについて		
15	国家試験問題の解説	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動学テキスト(南江堂) ・基礎バイオメカニクス(医歯薬出版) ・動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価応用学		理学療法学科/2年	2020/後期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 整形外科的徒手検査法の目的と手技を学ぶ。 ・ 今までに学んだ理学療法評価学の知識や技術を活かして臨床推論を行い、安全で合理的かつ効果的な診療行為が行えるよう、臨床実習教育ツールを用いた学習を行う。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種整形外科的徒手検査を実施できる。 ・ 医学的情報を収集・分析し、これを解釈・統合し臨床にて応用できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った技術と経験を伝える。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえて予習する。発表がある時は前もって準備をする。				
回	テーマ	内容		
1	整形外科的徒手検査(腰椎1)	SLR, Bonnet, Double SLR, Lasegue test, Well leg raising, FNST, Miligram's test		
2	整形外科的徒手検査(腰椎2)	前屈テスト(座位テスト: Piedallu's test), 脚長テスト, 骨盤不安定性テスト(Pelvic rock test), 圧迫・離開テスト, Hibb'sテスト, Yeoman's test		
3	整形外科的徒手検査(腰椎3)	Slump test, Kemp's test, Patrick test, quadrant test, Gaenslen's test		
4	整形外科的徒手検査(頸椎)	Spurling's test, Jackson compression test, 椎間孔圧迫テスト, 肩押し下げテスト, Eaton test, 牽引テスト		
5	整形外科的徒手検査(胸郭出口)	Adson test, Wright's test, Eden test, Morley test, 腕神経叢伸張テスト, Soto-Hall test = Bruzinski 徴候		
6	整形外科的徒手検査(下肢1)	Ely test, Kendall test, Thomas test		
7	整形外科的徒手検査(下肢2)	Ober test, FAIR test		
8	整形外科的徒手検査(下肢3)	Lachman test(30° テスト), Pivot shift test, N test(jerk test), 前方・後方引き出しテスト ※sagging test		
9	整形外科的徒手検査(下肢4)	外反ストレステスト, 内反ストレステスト, Apley compression & distraction test, McMurray test		
10	整形外科的徒手検査(下肢5)	Wilson's test, Clarke's sign「patella grinding test, patella compression test」, Patella apprehension test		
11	整形外科的徒手検査(下肢6)	Patella ballottement test, Wipe test, bounce-home test		
12	整形外科的徒手検査(下肢7)	Noble compression test, Thompson-Simmonds test, 前方・後方引き出しテスト, talar tilt test, Kleiger's test, Homan's		
13	整形外科的徒手検査(上肢1)	Painful arch sign, dorp arm test, full can test, empty can test, Lift off test, belly press test, Apley scratch test		
14	整形外科的徒手検査(上肢2)	棘上筋衝突テスト, Neer's impingement test, Hawkin's impingement test, Glenohumeral gliding test, Anterior apprehension test, Posterior apprehension test		
15	整形外科的徒手検査(上肢3)	Speed's test, Yergason's test, 内反・外反テスト, Mill's test, Cozen's test, Thomsen test, Chair test, Fnkelestein's test, Phalen's & reverse Phalen's test		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価学 (金原出版) ・ 配布プリント 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法学演習		理学療法学科/2年	2020/後期	演習・講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
135分	15回	2単位(45時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
代表的障害(関節可動障害、筋力低下、持久力低下、協調運動障害、姿勢調節障害など)に対する運動療法の方法を教授する。				
授業終了時の到達目標				
代表的障害(関節可動障害、筋力低下、持久力低下、協調運動障害、姿勢調節障害など)に対して基本的運動療法を実施できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
骨関節系の解剖学と運動学、体表面解剖学、生理学、運動生理学の復習する。				
回	テーマ	内容		
1	関節可動障害に対する運動療法 1	関節可動障害を改善させる理論		
2	関節可動障害に対する運動療法 2	運動療法の実際		
3	筋力低下に対する運動療法 1	筋力低下を改善させる理論		
4	筋力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		
5	筋持久力低下に対する運動療法 1	筋持久力低下を改善させる理論		
6	筋持久力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		
7	全身持久力低下に対する運動療法 1	全身持久力低下を改善させる理論		
8	全身持久力低下に対する運動療法 2	運動療法の実際		
9	協調運動障害に対する運動療法 1	協調運動障害を改善させる理論		
10	協調運動障害に対する運動療法 2	運動療法の実際		
11	姿勢調節障害に対する運動療法 1	姿勢調節障害を改善させる理論		
12	姿勢調節障害に対する運動療法 2	運動療法の実際		
13	動作練習	基本動作・歩行を改善させる運動療法		
14	主要疾患の運動療法	主要な疾患に対する運動療法		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際(文光堂)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法学 I		理学療法学科/2年	2020/前期	実験・講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 物理療法の分類、各機器の特性などを学ぶ。 各種物理的刺激の身体に対する反応を学ぶ。 実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 物理的エネルギーの生体に対する影響、ならびにその生理学的根拠を理解する。 目的に応じた各種物理療法の選択を会得、適応、禁忌を把握できるようになる。 物理療法の一般的效果が説明でき、物理療法機器が安全に使用できるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
各機器についての使用方法の確認。				
回	テーマ	内容		
1	物理療法の概要、作用と禁忌、機器のシミュレーション	物理療法大分類と小分類、機器名、周波数について、機器に触れて適応や作用、方法と禁忌を模索する		
2	物理的刺激の特性や作用について 各種物理的刺激の作用と禁忌 (まとめ)	物理的刺激の特性や作用、禁忌のまとめについて		
3	温熱療法について	ホットパック、パラフィン、極超短波、超短波について、温熱の生理的作用、各機器の深達度、確認実験の準備など		
4	水治療法について	過流浴、気泡浴、交代浴などについて、水の作用、浮力の影響、水中での身体への影響、確認実験の準備など		
5	寒冷療法について	対流冷却法、気化冷却法、伝導冷却法について、寒冷刺激の伝導要因、生理的作用、確認実験の準備など		
6	光線療法について	紫外線と赤外線、レーザー光線について、波長と周波数、逆自乗の法則、ランバートの余弦則など、確認実験の準備		
7	各種物理療法の確認実験(1)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
8	各種物理療法の確認実験(2)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
9	各種物理療法の確認実験(3)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
10	各種物理療法の確認実験(4)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
11	各種物理療法の確認実験(5)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
12	各種物理療法の確認実験(6)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
13	各種物理療法の確認実験(7)	各班にてホットパック、過流浴、気泡浴、交代浴、コールドパック、極超短波、赤外線の確認実験をそれぞれ行う		
14	各班による実験結果のまとめと考察	結果の情報共有、まとめと考察		
15	確認実験結果の発表	各班による確認実験結果の発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、文献等		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	実験・講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 各種機器の特性を学ぶ。 各種物理的刺激の身体に対する反応を学ぶ。 実際に機器を使用することで、予測された効果や反応などを確認する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 物理的エネルギーの生体に対する影響、ならびにその生理学的根拠を理解する。 目的に応じた各種物理療法の選択を会得、適応、禁忌を把握できるようになる。 物理療法の一般的効果が説明でき、物理療法機器が安全に使用できるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
各機器について使用方法の確認。				
回	テーマ	内容		
1	超音波療法について	ERA、BNR、連続波と断続(パルス)波、温熱効果と非温熱効果、吸収係数、半減深度など、確認実験の準備		
2	牽引療法について	牽引の種類、間欠牽引の生理学的効果、牽引方向、股関節屈曲角度について、確認実験の準備		
3	電気刺激療法について	TENS、IFC、NMES、HVPC、MES、FES、電気的特性、モーターポイントについて、確認実験の準備		
4	神経伝導速度(MCV)について	神経伝導速度測定についての概要、測定方法について		
5	強さ時間曲線(S-D曲線)	強さ時間曲線の概要、測定方法について		
6	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(1)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
7	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(2)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
8	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(3)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
9	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(4)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
10	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(5)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
11	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(6)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
12	各種物理療法の確認実験とMCV、S-D曲線の計測(7)	各班にて超音波、頸椎牽引、腰椎牽引、TENS、干渉波の確認実験とMCV、S-D曲線の計測を行う		
13	各班による実験結果のまとめと考察	結果の情報共有、まとめと考察		
14	確認実験結果の発表	各班による確認実験結果の発表		
15	授業内容の総復習 国家試験問題の解説	授業内容の復習、国家試験問題の解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、文献等		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について学ぶ。 ・各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法について学ぶ。 ・切断者に対するリハビリテーションについて学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・切断の原因疾患やその切断術、切断の高位分類とそれに対応する義肢について説明できる ・各義足のパーツの機能とバイオメカニクス、アライメント調整方法についてこたえることができる ・切断者に対するリハビリテーションについて説明できる 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて国家試験合格レベルの知識を指導する		
時間外に必要な学修				
小テストや確認テストの対策として、また、知識の定着を目的として授業の復習をする。参考書の熟読と授業資料の整理など。				
回	テーマ	内容		
1	義肢総論	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDによる概要の理解 ・義肢の構成要素 ・義肢の目的義肢の種類 		
2	切断の原因と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・切断者数と切断原因 ・外傷、末梢循環障害、悪性腫瘍、先天性奇形 		
3	切断部位と切断術	<ul style="list-style-type: none"> ・切断と離断 ・切断術における各種の処置 		
4	切断者の理学療法評価	<ul style="list-style-type: none"> ・一般情報 ・問診 ・全身状態 ・身体面 ・APMスコア ・心理面 		
5	断端管理	<ul style="list-style-type: none"> ・断端管理の目的 ・切断から義肢装着までの流れ ・断端管理法の特徴と利点、欠点 		
6	足部について	<ul style="list-style-type: none"> ・義足の基本的構成要素 ・足部の構造 		
7	膝継手①	<ul style="list-style-type: none"> ・膝継手の変遷 ・膝継手に求められる機能 ・遊脚相制御 		
8	膝継手②	<ul style="list-style-type: none"> ・立脚相制御 ・膝継手部品の選択 		
9	股継手	<ul style="list-style-type: none"> ・股継手の種類 ・股継手の設定位置 ・屈曲補助バンパーの機能 		
10	下腿義足のソケット サイム義足のソケット	<ul style="list-style-type: none"> ・ソケットの種類 ・体重支持方法、懸垂方法 		
11	大腿義足のソケット 膝義足のソケット	<ul style="list-style-type: none"> ・ソケットの種類 ・大腿義足の変遷 		
12	下腿義足のアライメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチアライメント ・スタティックアライメント ・ダイナミックアライメント 		
13	大腿義足のアライメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチアライメント ・スタティックアライメント ・ダイナミックアライメント ・義足の前方安定性・義足の側方安定性 		
14	その他の義足について 義手	<ul style="list-style-type: none"> ・股義足のアライメント ・膝義足のアライメント ・サイム義足 ・足部切断用義足 ・義手 		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験過去問および練習問題を解く 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 (羊土社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを学ぶ。 ・下肢、体幹装具の種類と特徴および適応を学ぶ。 ・脳卒中、下肢骨折、体幹障害、小児疾患の下肢装具療法の処方の考え方とチェックアウトを学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションにおける装具療法の目的と装具処方の流れを説明できる。 ・各種下肢装具の種類と特徴及び適応を説明できる。 ・脳卒中片麻痺患者に対し下肢装具が処方できる。 ・下肢骨折、体幹障害、代表的な小児疾患の下肢装具療法を説明できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 自身の臨床例を用いて国家試験合格レベルの知識を指導する		
時間外に必要な学修				
小テスト、確認テスト対策として、また知識の定着として、授業終了後に復習をする。 教科書の熟読、授業資料の整理をする。				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論	<ul style="list-style-type: none"> ・装具の定義 ・装具の目的と代表例 ・装具の分類 ・装具の英文表記 ・装具の力学的な基礎 		
2	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢装具について ・代表的な構成部品 ・下肢装具のチェックアウト 		
3	足継手の制御機構	<ul style="list-style-type: none"> ・足関節の運動と足継手の動き ・底屈制限と背屈制限 ・足継手が膝関節へ与える効果 		
4	疾患別の装具療法 ①脳卒中片麻痺の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・長下肢装具 ・金属支柱付き短下肢装具 ・プラスチック短下肢装具 ・反張膝防止装具 ・ストラップと膝あて 		
5	疾患別の装具療法 ②対麻痺の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・対麻痺残存機能と歩行用装具 ・装具を使用した立位 ・歩行の効果と課題 ・対麻痺の下肢装具 		
6	疾患別の装具療法 ③整形外科的装具	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的装具の概略 ・クラビクルバンド ・バストバンド ・免荷装具 ・前十字靭帯損傷用の膝装具 他 		
7	疾患別の装具療法 ④頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹装具の構成要素と適切な位置 ・頸椎装具 ・胸腰仙椎装具 ・仙腸装具 		
8	疾患別の装具療法 ⑤末梢神経障害の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・手の末梢神経損傷について ・尺骨神経麻痺、橈骨神経麻痺、正中神経麻痺の装具 		
9	疾患別の装具療法 ⑥脊柱側弯症の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・脊柱側弯症について ・特発性側弯症に対する装具療法 ・脊柱側弯症に対する装具の種類とその特徴 		
10	疾患別の装具療法 ⑦小児疾患の装具	<ul style="list-style-type: none"> ・小児疾患とその装具 ・先天性股関節脱臼、ペルテス病、筋ジストロフィー症、脳性麻痺、先天性内反足と装具 		
11	疾患別の装具療法 ⑧関節リウマチの装具	<ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチについて ・関節リウマチの装具(上肢装具・下肢装具) 		
12	靴型装具	<ul style="list-style-type: none"> ・靴の基本的構造とその補正 ・靴の踵の補正 ・靴底の補正 ・靴の中での補正 		
13	義肢装具の給付制度	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装具の給付について ・義肢装具の制度分類 ・義肢装具の給付制度 ・義肢装具の申請方法 		
14	短下肢装具装着における歩行分析	<ul style="list-style-type: none"> ・片麻痺患者の歩行でみられる特徴的な現象 ・片麻痺患者の歩行分析 		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学(羊土社)		期末試験	100%	毎回行う小テストと期末試験の両方で採点する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法技術論		理学療法学科/2年	2020/後期	実技・講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
下肢整形疾患(膝関節)を中心に、評価から治療の流れを模擬的に経験する。				
授業終了時の到達目標				
高原骨折保存療法における以下の項目を模擬的に実施できるようになる。 ①評価項目を列挙できる。 ②評価の目的を述べるができる。 ③評価結果を正しく解釈できる。 ④治療プログラムを列挙できる。 ⑤治療プログラムを実施することが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科疾患を担当してきた技術を授業に活かして行く。		
時間外に必要な学修				
1年次に履修した解剖学(骨関節系)と運動学、体表面解剖学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	高原骨折保存療法の概要	高原骨折の分類、骨治癒過程の説明 疾患名から評価項目の列挙		
2	高原骨折保存療法の評価①	関節可動域測定(関節包内運動:roll back機構)		
3	高原骨折保存療法の評価②	関節可動域測定(関節包内運動:screw home movement)		
4	高原骨折保存療法の評価③	関節可動域測定(カルテ記載方法の説明) 関節拘縮等の病態説明		
5	高原骨折保存療法の評価④	関節可動域測定(カルテ記載方法の説明) 関節拘縮等の病態説明		
6	高原骨折保存療法の膝周囲筋に対する評価+運動療法①	膝関節関節可動域の制限因子となる筋の鑑別方法 それらの筋に対するスタティックストレッチ		
7	高原骨折保存療法の膝周囲筋に対する評価+運動療法②	膝関節関節可動域の制限因子となる筋の鑑別方法 それらの筋に対するPNF応用ストレッチ		
8	高原骨折保存療法の膝周囲の軟部組織に対する評価+運動療法①	膝蓋上囊癒着の鑑別 膝関節筋に対するアプローチ		
9	高原骨折保存療法の膝周囲の軟部組織に対する評価+運動療法②	大腿骨前脂肪体癒着の鑑別 大腿骨前脂肪体に対するアプローチ		
10	高原骨折保存療法の膝周囲の軟部組織に対する評価+運動療法③	膝関節筋の触診 半月板後方誘導について		
11	高原骨折保存療法の膝周囲の軟部組織に対する評価+運動療法④	半膜様筋の触診 半月板後方誘導について		
12	高原骨折保存療法の膝周囲の軟部組織に対する評価+運動療法⑤	膝蓋支帯の評価 膝蓋支帯に対するアプローチ		
13	高原骨折保存療法に対する評価から治療の流れの復習	評価・治療の確認		
14	高原骨折保存療法に対する評価から治療の流れの復習	評価・治療の確認		
15	高原骨折保存療法に対する評価から治療の流れの復習	評価・治療の確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢(メジカルビュー)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経系理学療法 I		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
脳血管障害の病態と治療、リスク管理と理学療法評価について教授する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管疾患の病態および症状を説明できる。 ・脳血管疾患の治療およびリスク管理について説明できる。 ・脳血管疾患の症状と障害について理学療法評価を実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
神経系の解剖学と生理学の復習をすること。				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害の概要 1	発症機序、病型分類、疫学		
2	脳血管障害の概要 2	症状と脳の機能解剖		
3	脳血管障害の概要 3	合併症		
4	診断と治療 1	診断と治療の概要と流れ		
5	診断と治療 2	検査と診断		
6	診断と治療 3	治療		
7	リスク管理 1	急性期のリスク管理		
8	リスク管理 2	合併症のリスク管理		
9	リスク管理 3	回復期および維持期のリスク管理		
10	理学療法評価 1	急性期の評価		
11	理学療法評価 2	運動機能の評価		
12	理学療法評価 3	感覚機能の評価		
13	理学療法評価 4	高次脳機能の評価		
14	理学療法評価 5	姿勢制御と協調性の評価		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中理学療法の理論と技術 (メジカルビュー) ・コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像 (メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
中枢神経系理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害患者の異常動作の特徴に応じた動作訓練の理論および技術を教授する。 ・脊髄損傷の病態・合併症・理学療法評価・動作訓練の理論および技術を教授する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・典型的な脳血管障害患者に対する基本的な理学療法が実施できる。 ・脊髄損傷の病態・症状・合併症およびリスク管理の要点を説明できる。 ・脊髄の機能残存高位に応じた基本的理学療法を実施できる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。			
時間外に必要な学修				
神経系の解剖学と生理学、神経内科学と脳神経外科学の復習する。				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害に対する理学療法の概要	脳卒中リハの流れ		
2	急性期 1	ベッド上およびベッドサイド 1 (呼吸・ROM・筋力)		
3	急性期 2	ベッド上およびベッドサイド 2 (寝返り・起き上がり)		
4	急性期 3	ベッド上およびベッドサイド 3 (静的座位保持・動的座位保持)		
5	急性期 4	介助での移乗・介助での起立・介助での静的立位保持		
6	回復期 1	自動での起立・静的立位バランス練習・動的立位バランス練習		
7	回復期 2	自立した移乗動作の練習 (健側アプローチ・患側アプローチ)		
8	回復期 3	歩行練習 1		
9	回復期 4	歩行練習 2		
10	脊髄損傷に対する理学療法の概要	脊髄損傷の病態・合併症・急性期治療		
11	脊髄損傷に対する リハビリテーション 1	高位レベル診断・横断診断・理学療法評価		
12	脊髄損傷に対する リハビリテーション 2	床上動作練習		
13	脊髄損傷に対する リハビリテーション 3	移乗・起立練習		
14	脊髄損傷に対する リハビリテーション 4	歩行練習、車椅子の適合、シーティング		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中理学療法の理論と技術 (メジカルビュー) ・コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像 (メジカルビュー) ・脊髄損傷理学療法マニュアル (文光堂) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経筋疾患の理学療法		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
理学療法の対象となる主要な神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症など)について、疾患の概要及びリハビリテーションの方法を教授する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な神経筋疾患の病態および症状・経過・合併症を説明できる。 ・主要な神経筋疾患に対する基本的理学療法および運動療法を実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
神経系の解剖学と生理学、神経内科学の復習する。				
回	テーマ	内容		
1	総論	神経筋疾患に対するリハビリテーションの概要		
2	パーキンソン病 1	パーキンソン病の病態・症状・診断・治療		
3	パーキンソン病 2	パーキンソン病に対するリハビリテーション 1		
4	パーキンソン病 3	パーキンソン病に対するリハビリテーション 2		
5	脊髄小脳変性症 1	脊髄小脳変性症の病態・症状・診断・治療		
6	脊髄小脳変性症 2	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーション 1		
7	脊髄小脳変性症 3	脊髄小脳変性症に対するリハビリテーション 2		
8	多発性硬化症 1	多発性硬化症の病態、症状、診断、治療		
9	多発性硬化症 2	多発性硬化症に対するリハビリテーション		
10	筋萎縮性側索硬化症 1	筋萎縮性側索硬化症の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
11	筋萎縮性側索硬化症 2	筋萎縮性側索硬化症に対するリハビリテーション		
12	ギラン・バレー症候群	ギランバレー症候群の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
13	多発性筋炎・皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
14	重症筋無力症	重症筋無力症の病態、症状、診断、治療、リハビリテーション		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ(メジカルビュー)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害の理学療法		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
小児期の特性から発達障害の特徴及びその理学療法を理解する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の成り立ちと障害増が理解できる。 ・発達障害の理学療法について思考できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 成人との違いを画像を多く活用しイメージしやすく展開する。		
時間外に必要な学修				
人間発達で学んだ反射や姿勢反応・平衡反応について復習する。				
回	テーマ	内容		
1	発達障害の理学療法とは	正常発達と原始反射と姿勢反応		
2	正常発達について	粗大運動発達と反射の出現		
3	脳性麻痺(総論)	脳性麻痺の定義と分類		
4	脳性麻痺(痙直型両麻痺)	痙直型両麻痺の特徴と理学療法		
5	脳性麻痺(痙直型両麻痺)	痙直型両麻痺の特徴と理学療法		
6	脳性麻痺(痙直型四肢麻痺)	痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法		
7	脳性麻痺(痙直型四肢麻痺)	痙直型四肢麻痺の特徴と理学療法		
8	脳性麻痺(痙直型片麻痺)	痙直型片麻痺の特徴と理学療法		
9	脳性麻痺(アテトーゼ型)	アテトーゼ型の特徴と理学療法		
10	重度心身障害児	重度心身障害分類 合併症を理解する 在宅での生活を想起する		
11	二分脊椎	二分脊椎の病態分類 麻痺症状 合併症の管理		
12	神経筋疾患 (筋ジストロフィー DMD)	遺伝性疾患と神経筋疾患 デュシャンヌ型筋ジストロフィー症の病態と理学療法		
13	神経筋疾患 (その他の筋ジストロフィー)	遺伝性疾患と神経筋疾患 その他の疾患		
14	ダウン症	ダウン症の理学療法について		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる 小児理学療法 (医歯薬出版)		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
呼吸器疾患の理学療法		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器疾患における病態生理と理学療法の目的と実際について理解する。 呼吸評価と理学療法の目的と効果を学習する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の機能、呼吸器疾患の病態を理解する。 呼吸器機能評価、呼吸器の障害に対する理学療法について理解する。 レントゲンの読映や呼吸機能評価及び呼吸、排痰療法が行える。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 症例を通じてイメージしやすく展開する。		
時間外に必要な学修				
呼吸に関する解剖額と生理学や姿勢や狭容の動きに関する運動学について復習する。				
回	テーマ	内容		
1	呼吸器の解剖と運動	体表面解剖や呼吸運動、聴診について学習する		
2	呼吸器の生理学	換気メカニズム、換気とガス交換、酸素分圧について		
3	呼吸の生理学	血液ガス検査、呼吸不全の分類とメカニズム 体位による換気と血流について		
4	胸部画像診断	胸部レントゲンについて 体表面と画像診断、聴診と画像診断を考察する		
5	排痰法(無気肺)	画像診断(無気肺と肺水腫など) 肺区域と体位ドレナージ		
6	呼吸器疾患の病態	閉塞性換気障害と高速性換気障害 急性呼吸不全と慢性呼吸不全		
7	慢性閉塞性換気障害の評価	特徴的な身体所見と画像所見 病気分類		
8	酸素療法	酸素療法に関する方法や効果、適応とリスク管理		
9	慢性閉塞性換気障害 運動療法と酸素療法	コンディショニング ADL指導 レジスタンストレーニング		
10	慢性閉塞性換気障害 生活指導	ADL評価とADL指導 外来患者の対応		
11	人工呼吸管理	人工呼吸管理の目的と効果 NPPVの適応と禁忌		
12	疾患別 理学療法 理学療法 症例検討	閉塞性換気障害の評価と治療内容の検討 症例を通じて理学療法を考える		
13	拘束性換気障害	間質性肺炎の病態と所見		
14	高速性換気障害の運動療法	酸素療法と運動療法		
15	喀痰吸引	喀痰吸引方法と評価について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 病気がみえるvol.4 呼吸器(メディクメディア) フィジカルアセスメント 徹底ガイド 呼吸(中山書店) 		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
循環器疾患の理学療法		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
主に虚血性心疾患における病態生理および治療の目的と流れを学習する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・典型的な心電図波形が示す不整脈について説明できる。 ・急性心筋梗塞の病態およびリハビリテーションの流れが説明できる。 ・各期のリスクおよびリハビリテーションの目標を挙げることができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 臨床で実践した知識と技術をいかし授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえテキストを読んで予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	循環器系の解剖生理	心臓の構造 冠動脈の灌流領域		
2	心臓の電氣的活動	刺激伝導系		
3	心電図の基礎	活動電位と心電図の関係 正常心電図とは		
4	心電図の判読①	刺激の生成異常		
5	心電図の判読②	刺激の伝導異常		
6	心電図の判読③	不整脈の危険度 不整脈の治療		
7	虚血性心疾患の病態と治療	狭心症		
8	虚血性心疾患の病態と治療	心筋梗塞		
9	急性心筋梗塞のリハビリテーション	各病期の病態とリスク、リハビリテーションの目標と流れ		
10	慢性心不全	慢性心不全の病態、リハビリテーションの目標と流れ		
11	虚血性心疾患の評価	理学療法評価		
12	運動耐容能の評価と運動処方	心肺運動負荷試験と運動処方		
13	虚血性心疾患における運動療法とその効果	運動療法の有用性と機序、運動療法の実際		
14	虚血性心疾患患者のADLおよび患者指導	ADL指導、栄養指導、運動指導		
15	症例検討	症例報告を読み、循環器疾患に対する理学療法士の視点を学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活習慣病の理学療法		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	横川 光代・村上 匡司
授業の概要				
各疾患の病態を理解したうえで生理学における知識を基本に、有効とされる運動療法の条件を理解し、さらにそれらの予防や治療等について基本的技術を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームの病態の理解 ・各々の運動処方理解 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		村上 匡司：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 これまでの臨床で実践した知識と技術を活かし授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえ教科書や資料等を用いて予習をする。				
回	テーマ	内容		
1	総論(生活習慣病、メタボリックシンドロームなど)	生活習慣病の定義と種類について		
2	総論(エビデンス、推奨度など)	各疾患についての診療ガイドライン 標準的理学療法の概説		
3	動脈硬化	加齢に伴って動脈硬化が生じるメカニズム 動脈硬化に対する運動療法		
4	高血圧の病態、合併症と治療	高血圧の定義、本態性高血圧と二次性高血圧について 高血圧の病態と治療について		
5	脂質代謝総論、高脂血症の分類	脂質代謝の仕組みについて 脂質異常症の分類		
6	動脈硬化の合併症、高脂血症の予防と治療(運動療法)	動脈硬化による合併症 治療・運動療法について		
7	骨代謝総論、骨粗鬆症の治療と代表疾患	骨代謝総論 骨粗鬆症の病態と評価		
8	骨粗鬆症の予防と治療(運動療法)	骨粗鬆症の予防(食事、薬物療法) 運動療法		
9	糖尿病の分類と定義、疫学について	糖尿病の定義、1型糖尿病と2型糖尿病、NIDDMとIDDM、疫学などについて		
10	糖尿病の病因、症候および合併症について 血糖の調節機構について	糖尿病の症状、成因と病態、合併症について 糖質代謝総論、血糖調節とホルモン、インスリンの作用など		
11	糖尿病の検査や診断、治療およびリハビリテーション医学について	糖尿病の診断基準、糖代謝異常の判定区分、糖尿病の検査、治療の全体像、食事療法と運動療法など		
12	糖尿病の運動療法における適応と禁忌、運動計画について	糖尿病の運動療法についての概要、適応と禁忌、運動処方の原則、実際例について		
13	肥満、カロリー計算方法、生活習慣改善のための指導について	肥満症について、肥満の分類、肥満症の診断と治療、消費カロリーの計算方法、生活指導など		
14	慢性腎臓病に対するリハビリテーション	慢性腎臓病の病態と治療について 腎臓リハビリテーションについて		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえるvol.2 循環器 ・病期がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌(メディックメディア) ・糖尿病の理学療法(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床整形外科理学療法 I		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
・主な下肢整形外科疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の整形外科疾患に対する評価の流れを理解する。 ・下肢の整形外科疾患に対する評価項目のピックアップとその目的を述べるができる。 ・リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する				
回	テーマ	内 容		
1	・大腿骨近位部骨折の概要 ・大腿骨頸部内側骨折に対する理学療法	・大腿骨近位部骨折の疫学 ・大腿骨頸部骨折の分類と整形外科的治療方法の種類		
2	・大腿骨頸部骨折Garden分類と骨接合術の適応について	・Garden分類と欧米で使用されている分類 ・Garden分類と治療法の選択		
3	・整形外科理学療法の必要な知識と大腿骨頸部骨折特徴について	・大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の三本柱 ・保存療法、観血的治療方針		
4	・大腿骨頸部内側骨折の保存療法の考え方	・大腿骨頸部内側骨折の臨床的特徴と適応選択基準 ・保存療法のプログラム		
5	・CCHSの手術方法と接合状況のチェックポイント	・CCHS手術方法 ・CCHSの接合状況のX-pチェックポイント		
6	・Hansson pin systemの手術方法と接合状況のチェックポイント	・Hansson pin systemの手術方法 ・Hansson pin systemの接合状況のX-pチェックポイント		
7	・CCHSのX-Pチェックポイント	・cut out、back out、penetrationの意味 ・revascularizationとlate segmental collapseの関係		
8	・人工骨頭置換術(BHP)の特徴、機構、適応、問題点	・BHPの工学的理念と時代変遷、バイオメカニクス ・大腿骨頸部骨折に対するBHPの適応と問題点		
9	・BHPの手術手技とX-pでの早期・晚期合併症の見方	・BHPの手術手技(骨セメント使用) ・X-pのチェックポイント		
10	・大腿骨近位部骨折の周術期管理について	・大腿骨頸部内側骨折に対する骨接合術(CCHS法、Hansson pin固定)の後療法プログラム		
11	・大腿骨転子部骨折の分類について	・大腿骨転子部骨折の分類		
12	・大腿骨転子部骨折の治療方針について	・分類と治療方針の関係 ・診断と治療(保存療法と手術療法)		
13	・SFN法の特徴、代表的機種	・SFNの代表的機種(γ -nail、PFN、PFNA、IMHS) ・機種による治療方法の比較		
14	・SFN法の術後合併症の発生機序	・術後出血の発生機序 ・内反変形と回旋転位の発生機序		
15	・大腿骨頸部外側骨折の理学療法	・早期リハビリテーションプログラムと早期荷重		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア) ・運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法とリハプログラム(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床整形外科理学療法Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
主な下肢整形外科疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 膝関節疾患に対する評価の流れを理解する。 ・ 膝関節疾患に対する評価項目のピックアップとその目的を述べるができる。 ・ リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて次回の授業内容を予習する。				
回	テーマ		内容	
1	・ 人工股関節のデザイン ・ 固着、osteolysisについて		・ 人工股関節の目的、デザインと機能 ・ 人工股関節の固着、初期固定性	
2	・ 人工股関節置換術における術後脱臼		・ 人工股関節置換術アプローチと術後脱臼方向の関連性 ・ 術後脱臼の誘発要因	
3	・ セメントレス人工股関節のステム周囲に見られる継時的変化について		・ 初期固定性の判断基準、感染の経過観察方法 ・ セメントレス人工股関節ステム周囲の継時的変化	
4	・ 人工股関節置換術プロトコールの理解の仕方		・ 人工股関節置換術に用いられる各種プロトコール ・ プロトコール変更決定因子	
5	・ 変形性関節症の形態学的変化と病態		・ 変形性関節症の臨床症状と病態 ・ 変性軟骨の治療法	
6	・ 膝骨壊死症の形態学的変化と病態		・ 膝骨壊死症の臨床症状と病態 ・ 壊死部の自然経過と再生	
7	・ 高位脛骨骨切り術 (closed wedge HT0)		・ closed wedge HT0の適応と手術方法 ・ 術後管理の方法とリハビリテーションプログラム	
8	・ 高位脛骨骨切り術 (opening wedge HT0)		・ opening wedge HT0の適応と手術方法 ・ 術後管理の方法とリハビリテーションプログラム	
9	・ 人工膝関節単顆置換術(UKA)について		・ UKAの歴史と変遷 ・ UKAの適応と手術の選択方法、術式	
10	・ 人工膝関節単顆置換術(UKA)の理学療法について		・ UKAの術後管理の方法とリハビリテーションプログラム ・ UKAにおける術後合併症	
11	・ 人工膝関節全置換術(TKA)について		・ TKAの歴史と変遷 ・ TKAの適応と手術の選択方法、術式、早期離床の意義	
12	・ 人工膝関節全置換術(TKA)の理学療法について		・ TKAの術後管理の方法とリハビリテーションプログラム ・ TKAにおける術後合併症	
13	・ 膝関節疾患の理学療法について		・ 術前理学療法と術後所見を見るときのポイント ・ 術後理学療法と日常生活動作訓練	
14	・ 症例検討①		・ 模擬患者の基本情報より評価項目を考える ・ 評価結果をアセスメントする	
15	・ 症例検討②		・ 評価結果から問題点を考え、ICFで記載する	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア) ・ 運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法とリハプログラム(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床整形外科理学療法Ⅲ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
主な脊髄脊椎疾患の理学療法評価並びに治療体系について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎脊髄疾患に対する評価の流れを理解する。 ・脊髄脊椎疾患に対する評価項目のピックアップとその目的を述べるができる。 ・リスクを考慮した体位変換、運動検査、生活活動検査ができる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 整形外科急性期での経験を活かし臨床的思考過程の習得を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業資料、テキストを用いて復習と予習をする				
回	テーマ	内容		
1	・頸椎症の臨床病理 ・頸髄症の病態・診断と治療	・頸髄症の成因と病態 ・臨床症候と病理的变化の理解、各種検査		
2	・各伝導路と病態の特徴	・各伝導路の理解 ・代表的疾患における症状の特徴		
3	・各高位障害の特徴と症候1	・C3/4高位の特徴 ・頸椎病変による手の症候と歩行障害		
4	・各高位障害の特徴と症候2	・中下位頸椎の症候、C5/6高位障害の特徴 ・神経根症と脊髄症		
5	・各高位障害の特徴と症候3	・脊髄円錐部の解剖学的特徴 ・Th11~L1脊髄高位の神経症候		
6	・後縦靭帯骨化症、黄色靭帯骨化症 ・中心性損傷の症状と治療	・骨化症の成因 ・骨化症の自然経過と治療方針		
7	・脊椎、脊髄疾患に対する画像診断 ・頸椎、頸髄疾患に対する観血的治療	・各種疾患の画像診断と画像計測における基準値 ・前方、後方アプローチによる各種手術方法と問題点		
8	・腰痛と下肢の痺れの診断と治療 (腰部脊柱管狭窄症を中心に)	・腰部脊柱管狭窄症(LCS)の国際分類 ・LCSの症状		
9	・腰部脊柱管狭窄症の自然経過からみた治療戦略	・腰部脊柱管狭窄症の自然経過 ・腰椎変性すべり症の発生機序と椎間関節面の関係		
10	・腰椎変性すべり症、変性側弯症の発生機序と治療方針	・腰椎変性すべり症と変性側弯症の発生機序 ・Static factor と Dynamic factor		
11	・腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイドライン	・疫学、自然経過に関するエビデンス ・病態、診断、治療に関するエビデンス		
12	・腰椎椎間板ヘルニアの治療について	・診断について ・手術方法について		
13	・腰部疾患術後の理学療法について	・術前理学療法・腰部手術所見を見るときのポイント ・術後理学療法・腰部手術後の日常生活動作訓練		
14	・症例検討①	・模擬患者の基本情報より評価項目を考える ・評価結果をアセスメントする		
15	・症例検討②	・評価結果から問題点を考え、ICFで記載する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえるvol.11 運動器・整形外科(メディックメディア) ・運動器疾患の治療とリハビリテーション手術・保存療法とリハプログラム(メジカルビュー) 		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療応用学		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・合併症の予防や重複障害患者の臨床思考と評価方法、治療手技を学ぶ。 ・がん患者のリハビリテーションの多様性を学ぶ。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・周術期の安全な離床を促す理学療法が想起することが出来る。 ・がん患者、重複障害患者の理学療法評価、治療を想起することが出来る。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 周術期の理学療法について、症例を交えて展開する。		
時間外に必要な学修				
リスク管理のために中止基準を検査数値を復習してください。				
回	テーマ	内容		
1	人工呼吸器管理	人工呼吸器管理とは 非侵襲的人工呼吸器と侵襲的呼吸器管理		
2	人工呼吸器管理	非侵襲的呼吸器管理のモードと効果について		
3	人工呼吸器管理	侵襲的呼吸器管理のモードと効果について		
4	人工呼吸器管理	NPPVと在宅酸素療法(HOT)を体験する		
5	がん患者のリハビリテーション	総論 がんについて		
6	がん患者のリハビリテーション	がんと治療 緩和ケア 終末期ケア		
7	がん患者のリハビリテーション	がんと手術療法 リンパ浮腫		
8	胸部・腹部の手術と理学療法	侵襲期の病態と理学療法		
9	胸部・腹部の手術と理学療法	術前・術後の介入と効果		
10	胸部・腹部の手術と理学療法	早期離床と理学療法 集中治療室での理学療法		
11	胸部・腹部の手術と理学療法	症例検討		
12	栄養と運動療法	栄養障害と運動療法		
13	栄養と運動療法	呼吸器疾患 腎臓疾患 循環器障害 肝機能障害の栄養管理		
14	栄養と運動療法	症例検討		
15	重複障害患者の理学療法	症例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸ケアナビガイド(中山書店) ・がんリハビリテーション(医学書院) 		期末試験	100%	授業へは欠席することなく主体的に参加すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法学		理学療法学科/2年	2020/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
対象者の機能的な改善、活動・参加レベルへの結びつきを図るとともに、地域(在宅)で安心してその人らしい暮らしができるよう支援し、地域住民がともにクラス体性づくりをするという視点が重要である。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習場面で施設の概要・目的などを理解した状態で臨むことができる。 ・訪問リハビリ、デイサービス、デイケア、老人施設などで働くことができる。 ・小児・老人・身障者の日常生活での問題点を解決する社会資源を理解できる。 ・地域包括ケアシステムを理解する。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 訪問リハビリ、介護老人保健施設、デイサービス、介護老人福祉施設での経験をいかす		
時間外に必要な学修				
ボランティアへの積極的な参加や地域活動への興味をもつこと。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	地域リハビリテーションの概念 地域理学療法学概念		
2	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規	医療保険制度・介護保険制度・障害者総合支援法・バリアフリー法・地域における社会資源・地域包括システム		
3	地域理学療法の実際① 訪問系理学療法	訪問系の理学療法士に求められる役割 訪問理学療法での評価・治療		
4	地域理学療法の実際② 通所系理学療法	通所系理学療法学目的 通所系理学療法学評価・治療		
5	地域理学療法の実際③ 施設系理学療法	介護老人保健施設における理学療法 特別養護老人ホームにおける理学療法		
6	地域理学療法の実際④ 終末期における理学療法	終末期における疾患・終末期と終の棲家 終末期における理学療法の実際		
7	予防分野のリハビリテーション① サルコペニアと介護予防	サルコペニアの理解 介護予防教室運営のコツと実践例		
8	予防分野のリハビリテーション② 認知予防	認知症予防の実際 認知症予防教室運営について		
9	予防分野のリハビリテーション③ 転倒予防	転倒予防の実際 転倒予防教室運営について		
10	行政における療法士の役割	行政療法士の役割機能 地域包括ケアにおける行政療法士の役割		
11	レクレーション研究①	障害高齢者、健康予防教室、年少児保育、学童保育などにおける理学療法士としてのレクレーションを考える		
12	レクレーション研究②	発表準備		
13	レクレーション発表①	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験を行い評価を行う。		
14	レクレーション発表②	学生を対象者に見立て、目的に沿った内容、発表を行う。 また対象者としての経験を行い評価を行う。		
15	認知症サポーター研修	高松市の保健師により認知症サポーター一研修を受講し、認知症サポーターとなる。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業配布資料		期末試験 確認テスト	50% 20% 30%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境学 I		理学療法学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・日本における障害者や高齢者が安全に、安心して生活できるよう、理学療法士として助言や情報の提供を上手くできるようになる。 ・患者を取り巻く環境について、社会資源や福祉用具について学ぶ。 ・毎時間、復習を目的とした小テストを実施する。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者の生活環境について意識づけできる。 ・保健医療福祉を必要としている他者にうまく伝授できる。 ・障害者・高齢者の福祉用具を用いた生活環境を整えることができる。 ・国家試験の福祉用具、介護保険問題を解けるようになる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 福祉住環境コーディネーター1級・福祉用具プランナー・介護支援専門員の実務をいかす		
時間外に必要な学修				
<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。 ・参考書の熟読、授業資料の整理を行う。 				
回	テーマ	内 容		
1	生活環境学の概念と障害の捉えかた	ICIDHとICFの理解 環境因子について		
2	日本における生活環境の特徴と課題	日本家屋が高齢者、障害者に及ぼす影響 高齢化率と日本社会について		
3	障害者福祉施策の概要	バリアフリーとユニバーサルデザインを考える		
4	社会保障について①	国民皆保険と国民皆年金について		
5	社会保障について②	介護保険について①		
6	社会保障について③	介護保険について②		
7	福祉用具(移動補助機器)①	つえ・歩行器・歩行車		
8	福祉用具(移動補助機器)②	車いす		
9	福祉用具(移動補助機器)③	疾患、障害別による移動補助機器を考える		
10	福祉用具(移乗機器)①	リフトとスリング、トランスファー機器		
11	福祉用具(移乗機器)②	疾患、障害別による移乗機器を考える		
12	福祉用具(生活関連機器)①	ベッド周辺機器、排泄用具他		
13	福祉用具(生活関連機器)②	疾患、障害別による生活関連機器を考える		
14	まとめ①	まとめ		
15	まとめ②	国試の過去問で知識確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト(南江堂)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活環境学Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	坂口 千恵美
授業の概要				
症例を通して、在宅生活における環境設定を考える。				
授業終了時の到達目標				
症例の全体像より、必要な評価、アプローチを考えることができるようになる。 在宅生活を行う上での住宅における問題点の抽出とそれに対する改善策を立案することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 福祉住環境コーディネーター1級・福祉用具プランナー・介護支援専門員の実務をいかす		
時間外に必要な学修				
小テスト・確認テストの対策や知識の定着の為、毎回復習を行う。 参考書の熟読、授業資料の整理を行う。				
回	テーマ	内容		
1	日本における生活環境の特徴と課題	日本家屋の問題		
2	生活環境整備に関する法的制度	介護保険その他の諸制度と生活環境		
3	障害者について	障害者手帳など		
4	生活環境の基本①	段差・スペース・床材		
5	生活環境の基本②	手すりの取り付け 建具への配慮		
6	生活環境の基本③	玄関の整備 福祉用具の活用		
7	生活環境の基本④	高齢者、障害者向けの環境整備 トイレの基本・トイレの福祉用具		
8	生活環境の基本⑤	台所、食堂の環境整備・浴室、脱衣室の環境整備・廊下、 階段の環境整備		
9	疾患別環境整備(CVA)	片麻痺患者の環境整備		
10	脊髄損傷の生活環境1	実際に受傷された方(田村さん)に來校して頂き、現状を 聞かせて頂く(OTと合同授業)		
11	疾患別環境整備(進行性疾患)	パーキンソン、ALSなど進行性疾患患者の住環境		
12	疾患別環境整備(整形疾患・脊損)	RA、OA疾患患者の住環境 脊損・頸損患者の住環境		
13	脊髄損傷の生活環境2	頸損・脊損の方6名來校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。(OTとの合同授業)		
14	脊髄損傷の生活環境3	頸損・脊損の方6名來校。実際の生活の状況や身体能力を 見せて頂く。(OTとの合同授業)		
15	まとめ	期末試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト(南江堂)		期末試験 確認テスト	50% 50%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I		理学療法学科/2年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	中嶋 志保・田中 裕介
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 対象者に関する情報収集や問診から、その抱える問題、ディマンド、ニーズを把握すると共に、検査測定によって得られたデータの統合作業を臨床実習指導者の指導の下で繰り返し行い、認知的スキル(情報処理過程)を学ぶ。 受動的学習から能動的学習へとシフトさせることを学ぶ。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		中嶋 志保: 理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介: 理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。		
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> この過程を通じ、多くの気づきを得ることで、今までの受動的学習から患者志向の能動的学習へシフトさせる。 				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士が実践している危険の予見や禁忌事項の確認といったリスク管理について考える。 患者情報を既存の資料や、直接問診、間接問診によって収集したデータと、検査測定を通して得たデータを指導者の詳細な解説を受けながら統合を繰り返し模倣することで情報処理過程を学ぶ。 				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> 評価学で学んだ徒手筋力検査、反射検査、筋緊張検査等を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。 臨床実習指導者の指示監督下での医療面接で、患者の生活状況や家族、社会での役割、かかえる問題と患者のディマンドやニーズを理解し患者像を把握する。 				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report ②Clinical Record (Type1、Type2) ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> 実習の手引き 配布資料 Daily Report 		<ul style="list-style-type: none"> 学生の心得 自己学習ノート Clinical Record 	総括評定	100%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅱ		理学療法学科/2年	2020/前期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	10回	2単位(90時間)	必須	中嶋 志保・田中 裕介
授業の概要				
学校が連携している臨床経験3年以上の理学療法士が勤務する医療施設又は介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価を通して得られた対象者のデータを学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら処理し、認知的スキルを高める方法を学ぶ。 ・学生は認知領域スキルを想起レベルから解釈レベルへ、精神運動領域スキルを模倣レベルからコントロールレベルへ引き上げる学習方法を学ぶ。 ・「経験→振り返り→気づき→別の経験の中での実践」といった取り組みの中で実践力を身につける。 				
実務経験有無	実務経験内容			
有	中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 田中 裕介：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験をもとに、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
翌日の実習計画を踏まえ、教科書や資料などを参考に事前準備を行う。				
回	テーマ	内容		
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・この過程を経ることにより、「できること」が増え、「やりたいこと」が表出される良循環を形成する。 				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価実習Ⅰで経験した認知的スキルを基に、再度患者の情報、検査結果等のデータ処理過程を繰り返し経験することで、認知領域を想起レベルから解釈レベルへと引き上げる。 ・検査を通して得たデータの処理過程を、学生自身が指導者と何度もディスカッションを重ねながら患者像・障害像の把握過程を積み重ね、データの必要性、関連性、重要性の統合体験を通して認知領域の目標達成に臨む。 				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神運動領域を模倣からコントロールレベルへ引き上げるトレーニングを臨床実習指導者の指示監督下で経験を積む。 				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～④の教育ツールを使用する。				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report ②Clinical Record (Type1、Type2) ③自己学習ノート ④学生中間評価実施表				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の手引き ・配布資料 ・Daily Report 		<ul style="list-style-type: none"> ・学生の心得 ・自己学習ノート ・Clinical Record 	総括評定 100%	